

MAKINOHARA Life Interview

Part 1

茶業 松井さん(42歳)の場合

静岡県沼津市出身の松井さん。
牧之原市へ移住し、埼玉県出身の奥様と娘さんの3人で、
かつて民宿だったというお家に暮らしています。

松井さんのとある1日

[仕事の日]

6:00 起床(波がある時は7時頃まで波乗り♪)
8:00 出勤
12:00 昼休憩(波チェックとリフレッシュを兼ねて静波海岸へ)
13:00 勤務再開
17:00 退勤(波があれば波乗り)
19:00 夕食(農家さんからいただいた旬の野菜や果物が食卓に並ぶ)

[休みの日]

6:00 起床(波がある時は7時頃まで波乗り)
7:30 朝食(妻と子どもと朝食)
9:00 子どもと遊ぶ(車で15分圏内に公園がある)
12:00 昼食(お気に入りのパン屋で♪)
14:00 子どもと遊ぶ(静波海岸で砂遊びしたり漂流物を拾って遊ぶ)
17:00 入浴(海岸で遊ぶと砂まみれになるのでお風呂に直行!)
18:00 夕食(四季それぞれの美味しい魚で晩酌♪)

Interview “Surfing” 編

Q 牧之原市のマリンスポーツ環境はいかがですか？

A すごく贅沢だと思います。

自分はボディボードをやっているのですが、まず温かいことが移住の一番の決め手になりました。同じ静岡県の中でも気候が結構違いますよね。牧之原市は全国的に見ても日照時間が長いし、とても過ごしやすいです。それと、海岸が長くて、エリアも広い。少し探せば、空いているポイントが見つかることが良いですよ。

Q 海のある暮らしの良い所は？

A 生活と海が密着していること。

近さが一番のメリットですよ。僕は海辺に家を見つけたので、すぐに波のチェックに行きます。オン・オフ問わず、基本は朝起きたらすぐ波を見に行っていますね(笑)。良ければそのまま乗る、みたいな。都会や山の方に住んでいて、車で1〜2時間かけて海まで出る人もたくさんいる中で、歩いて行ける距離は貴重です。仕事の休憩中でもリフレッシュにサッと行きますから。子どもとも、近所の公園に行くくらいの感覚で海に行き、砂遊びしたり、流れてきた物を拾って遊んだりします。夜は地元の美味しい魚で晩酌。一日の生活と海は切っても切り離せません。



Interview “Work” 編

Q 牧之原での仕事について教えてください。

A 海に入ってから、仕事へ。

お茶工場勤務です。仕事はこっちに来てから探したんですが、それほど苦労なく見つけることができました。この辺りは大きな工場が多く、求人も十分にあるのではないですか。8〜17時勤務なので、朝1〜2時間ぐらゐ海に入ってから仕事に行きますし、夜はゆっくり家族との時間や自分の時間を過ごせます。仕事とプライベートのバランスの良いライフスタイル

を送れると思いますよ。夏場には家の横でかき氷のお店もやっていて、庭はBBQするスペースにしています。お客さんだけでなく近所の方もよく寄ってくるんですが、盛り上がりすぎて、いつの間にかBBQスタート、なんてことも多いですね(笑)

Q 女性が働く環境としては？

A 仕事復帰しやすい環境。

妻は、いちご農家でアルバイトしているんですが、職場に子どもが遊ぶスペースを作ってもらい、おもちゃまで置いてもらったんです。子育てしながら働くことに寛大ですよ。牧之原市は待機児童もゼロで、子どもの数が多いと1クラス増やししたりして、お母さんたちが仕事復帰しやすい環境があると思います。



Interview “Family” 編

Q 家族で過ごす時間はいかがですか？

A 都会ではできない体験。

地域の小さい子を持つ親御さんたちと一緒に、お弁当を持って出かけることがよくあるんですが、空港の展望台とか、おもしろいところがあるので楽しいです。あと、移住してきたばかりの頃、お茶や魚の美味しさにビックリしました(笑)。子どもには、食や遊びなど、都会ではできない体験をたくさんさせてあげられていると思います。

Q ご近所づきあいはいかがですか？

A 昔からの友達みたい。

実は最初、地域の人たちと関わるのはめんどくさいと思っていたんです(笑)。でも、一軒家に住んで少しずつ関わりができるようになって、だんだん楽しくなってきました。祭なんかにも出るようになったんですが、市外から移住してきたとか関係なく、皆さん、昔からの友達のように接してくれます。関わりうと思えば受け入れてもらえるのももちろん、逆に関わるのが苦手な場合は無理強いされることがありません。自分たちらしい選択ができる環境です。

